は、今回の予防事業にどれくらいの要支援者が移行できるか積算してもらっている。「環境が整えば多くの要支援者の移行が可能です」と田中さん。難しいのは、「うつを含む精神疾患、がんのターミナル・急性疾患」など。

事業の全市への拡大を目指し、市内にあるリハビリテーションの専門学校との提携も進めている。来年度下半期には、専門学校の教師や学生を対象に、現在協力してもらっているリハ専門職が伝達講習をして人材を養成していくことも考えている。そのためのマニュアル作成も今年度、進めていく方向だ。

一方、課題は何か。

坂道が多い同市では足腰が弱い高齢者の移動手段の確保が求められている。NPOを活用した移動支援なども考えているという。

また事業を実施していくにはやはり「思い」が無くてはできない。地方公務員には異動があることから「人財育成が必要ですし、永遠の課題です」と指摘する。

撮影／國森康弘

通所型事業レポート

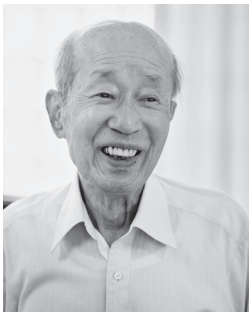
予防サービスの〝卒業生〟がボランティアとして支援

生駒市社会福祉協議会デイサービスセンターに委託されている通所型事業（パワーアップ教室）を取材した。予防サービスの〝卒業生〟も4名がボランティアとして参加していた。

お喋りと笑いで賑やかな会場

会場に入ると高齢者や若いスタッフらしき30～40名が円形に椅子を並べて座っている。お喋りと笑いが絶えず、とても賑やかだ。

Aさん



Cさん

この日は、14名の予防モデル事業対象者と12名のボランティアが参加。ボランティアのうち4名は予防サービスの〝卒業生〟だ。専門職の支援は、介護職、看護師、介護予防運動指導員、作業療法士各1名など。

最初、椅子を円形に並べ、準備体操を開始。その後、

円形になって準備体操